

都市における人の動きデータ 使ってみませんか？

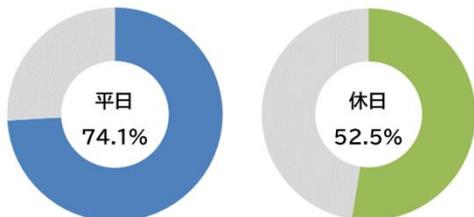
全国都市交通特性調査（国土交通省都市局）のご案内

どなたでも
お使いいただけます

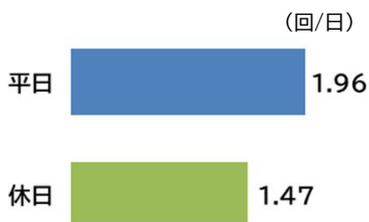


1日の移動回数わかります

外出率



1日あたり移動回数



パーソントリップ調査とは

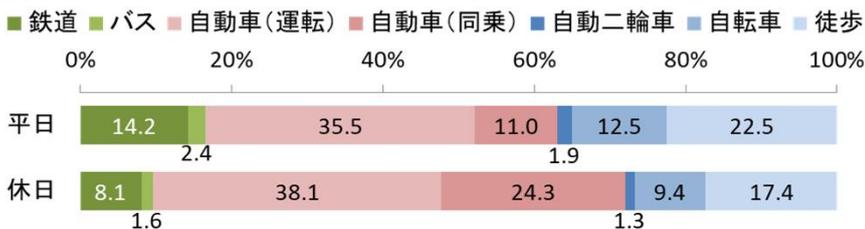
世帯や個人属性に関する情報と1日の移動をセットで尋ねることで、「どのような人が、どのような目的で、どこからどこへ、どのような時間帯に、どのような交通手段で」移動しているかを把握することができます。その名の通り、「人（パーソン）」に着目しているため、一つの交通手段だけでなく、公共交通、自動車、自転車、徒歩といった交通手段の乗り継ぎ状況を捉えることができます。

全国都市交通特性調査の調査方法

- ◎対象都市：全国70都市
(全国横串で分析可能)
- ◎サンプル数：1都市当たり500世帯
*2021年調査では約43,800世帯から回収
- ◎調査方法：住民基本台帳から抽出した世帯に対し、調査票を郵送。郵送もしくはウェブサイトにて回収。
- ◎調査対象日：2021年10～11月の平日・休日

移動手段わかります

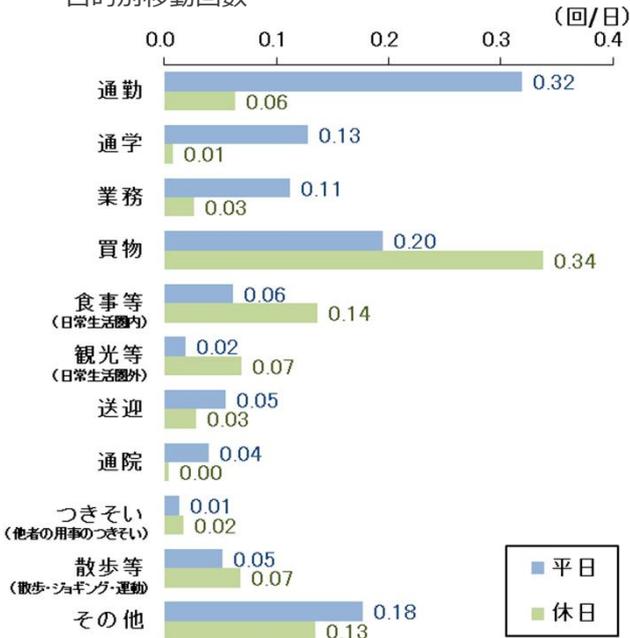
交通手段別構成比



移動の目的が

わかります

目的別移動回数



移動目的の分類

「通勤」、「通学」、「業務」、「私用」、「帰宅」の5分類
*「私用」は、「買物」、「食事等」、「観光等」、「送迎」、「通院」、「つきそい」、「散歩等」、「その他」に分けられます。

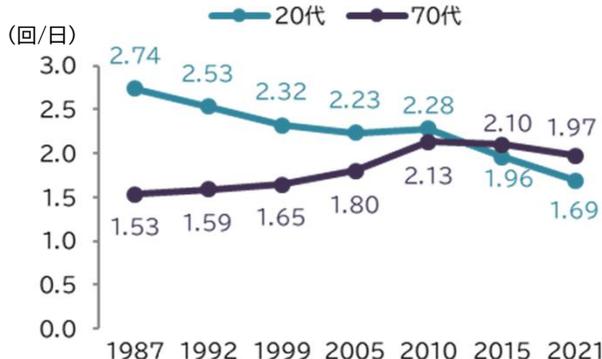
交通手段の分類

「鉄道」、「バス」、「自動車」、「二輪車」、「徒歩」の5分類
*「自動車」は、「運転」と「同乗」に分けられます。
*「二輪車」は、「自転車」と「自動二輪車」に分けられます。

1987年以来、

約35年の変化わかります

「20代と70代の移動回数が2015以降逆転し、2021年では差が拡大」



これまでの調査

- ◎1987年から概ね5年周期で実施
(1987, 1992, 1999, 2005, 2010, 2015, 2021)
- ◎2021年調査は第7回
- ◎第1～3回は「全国都市パーソントリップ調査」、第4回からは「全国都市交通特性調査」

ウラ面に
分析例



ポイント①

属性による違いもわかります

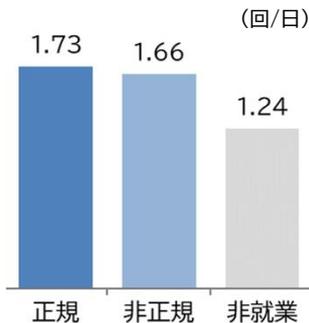
年齢・性別による違いは？

60代より70代の外出率が低く、男性より女性の外出率が低い



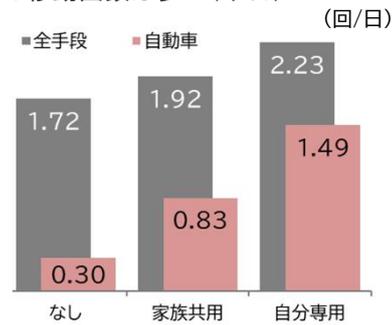
就業形態による違いは？

1日あたり移動回数は、非就業者が最も少ない(休日)



自動車の保有による違いは？

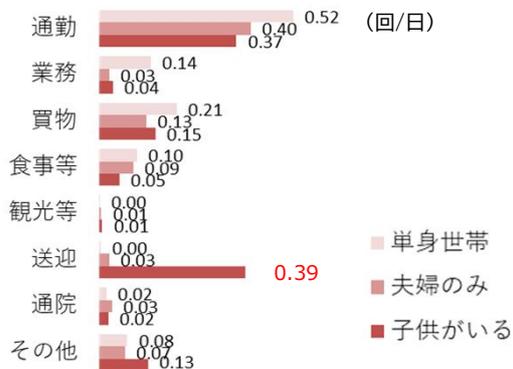
自分専用の自動車があると、1日あたりの移動回数は多い(平日)



世帯構成による違いは？

(単身、夫婦のみ、子育て世帯)

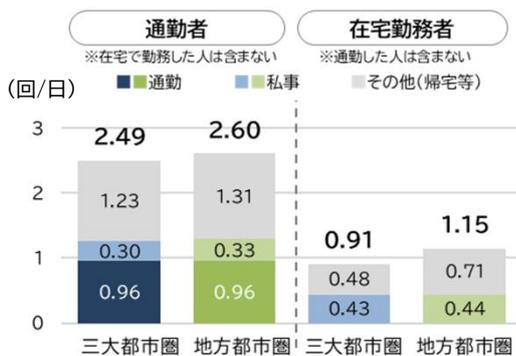
子どもがいる30代女性は、送迎のための移動が圧倒的に多い(平日)



通勤形態による違いは？

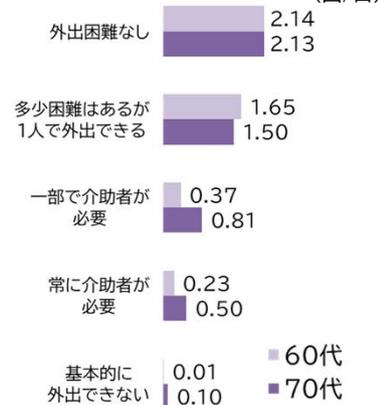
(通勤者、在宅勤務者)

・在宅勤務者は通勤がない分、移動回数が少ない
・私事の移動は在宅勤務者が通勤者よりやや多い



外出時の介助要否による違いは？

外出時に介助が必要であるほど、移動回数は少ない(回/日)

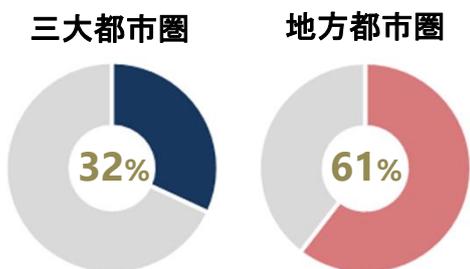


ポイント②

都市規模による違いもわかります

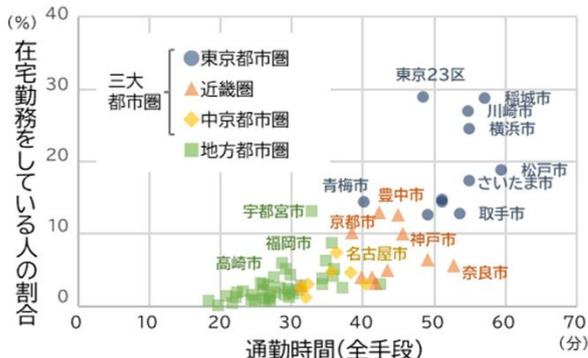
三大都市圏vs地方都市圏

自動車利用割合は、地方都市圏の方が大きい(平日)



10都市類型、70都市別の比較が可能

通勤時間と在宅勤務率は一定の相関が見られる



都市類型の設定

都市圏規模、都市圏内における都市の位置(中心部/周辺部)から全国の都市を10類型に分ける。
*都市圏規模は、三大都市圏、地方中核都市圏(40万人以上)、地方中核都市圏(40万人未満)、地方中心都市圏の5つ

データの入手方法 ⇒ 国土交通省都市局HPにアクセス

全体: http://www.mlit.go.jp/toshi/tosiko/toshi_tosiko_tk_000033.html

*ご希望の集計データが公開されていない場合はご相談ください

(統計法32条及び33条に基づいて、調査票情報(マスターデータ)の貸出ができる場合があります。その他、e-statにてデータを公開予定です)

【お問い合わせ】

hqt-zenkokuuptdata@gxb.mlit.go.jpまでお気軽に

国土交通省 都市局 都市計画課 都市計画調査室